

# 大かほ下 議会だより

No. **167**

令和7年  
**3月定例会**  
4月20日号



議会だよりのページ



## ・ Topic 1

3月定例会で決まったこと  
主な審議結果 P2-3

## ・ Topic 2

委員会の審議状況  
常任委員会レポート P4-8

## ・ Topic 3

議員から行政に  
一般質問 P9-19

# 当初予算

# 令和7年度予算

令和7年度の予算について審査し、全ての予算を可決しました。新規の事業、事業費の大きなものなどを中心に紹介します。

## 予算概要

(金額は万円未満切り捨て)

会計別	令和7年度予算額	令和6年度予算額	増減
一般会計	131億5000万円	146億3000万円	△14億8000万円
特別会計	61億2100万円	57億2783万円	3億9317万円
企業会計	48億3726万円	46億8343万円	1億5383万円
合計	241億827万円	250億4126万円	△9億3298万円

一般会計 庁舎建設や亀岡地区公民館改築事業の減などにより前年度比で14億8000万円、10.1%の減少  
 特別会計 国保会計における1人当たりの事業医療費の上昇に伴う保険給付の増、宅造会計における借入金一括償還による増などにより前年度比で3億9317万円、6.9%増加  
 企業会計 病院会計における職員人件費や建設改良費の増などにより前年度比で1億5383万円、3.3%増加

### 総務費

## 22億7860万円

- 旧庁舎解体費等  
4億5550万円
- 高島高校魅力化  
1000万円



### 民生費

## 37億1671万円

- 児童手当支給  
4億1109万円
- 妊婦のための支援  
1103万円



### 衛生費

## 11億5067万円

- げんき館  
照明LED化  
2627万円



### 農林水産業費

## 5億8854万円

- 新規就農者支援関連  
4439万円
- 鳥獣被害対策  
1054万円



### 商工費

## 9億5592万円

- ふるさと納税  
6億1355万円
- 観光施設管理  
6657万円



### 土木費

## 11億2289万円

- スマートIC整備  
2億4904万円
- 除排雪  
1億7986万円



### 消防費

## 5億916万円

- 小型動力ポンプ付  
積載車更新  
769万円
- 資機材搬送車整備  
829万円



### 教育費

## 12億5386万円

- 学校給食費支援  
5707万円
- 高島小学校トイレ改修  
1550万円



# をチェック



# 可決

全会一致

### 新規 和田地区公民館改築 3090万円

- 設計業務、  
木材調達ほか



### 新規 町ホームページリニューアル 759万円

- シンプルで検索しやすく、  
町の魅力発信や職員の操  
作性の向上を図る



### 新規 中学校部活動の地域移行推進 250万円

- 令和5年度においてモ  
デル種目の実施や運営  
における課題検証を行  
い「たかはたモデル」  
の体制構築を図る



### 新規 森林経営管理 953万円

- 森林資源の適正な  
管理を行うため、  
候補区域の選定及  
び全体計画を行う



### デュアルスクール 726万円

- 町内学校と連携しデュアルスクール制度を利用する世帯を受け入れ、関係人口の増加や移住の促進を図る

### 新規 公立置賜総合病院通院支援264万円

- 片道2500円で利用  
できるタクシー券



# 令和6年度 補正予算

# 12会計補正総額 3817万円

# 可決 全会一致

**主な会計**

一般会計	1億4113万円 (総額164億1388万円)
介護保険	△8822万円 (総額 29億4526万円)

**【収入】**

・教育、保育給付事業負担金	7927万円
・地域経済活性化事業	2193万円
・農業農村整備事業	4790万円

**注目事業**

**【支出】**

・農林水産物等災害対策事業	164万円
・担い手確保、経営強化支援事業	2575万円
・地域経済活性化、物価高騰対策事業	2340万円
・除排雪経費	4866万円ほか

## Point 1 人事

人権擁護委員	ながおか 長岡 克典さん 再任	かつのり 克典さん 再任	すずき 鈴木 洋一さん 新任
	あき 秋 尚子さん 再任	なほこ 尚子さん 再任	よういち 洋一さん 新任
教育委員会委員	わがづま 我妻 恵子さん 再任	けいこ 恵子さん 再任	しげたか 重隆さん 新任

※新任、再任に同意

## Point 2 附属機関設置条例

各執行機関の附属機関について、令和7年度から新たに委員会を設置し、6年度をもって事務が完了した委員会等を廃止するもの。

**【設置】** 再犯防止推進計画策定委員会（町民課）

**【廃止】** 人・農地プラン検討会（農林課）  
医療的ケア児ガイドライン策定委員会（教育総務課）  
地域クラブ活動検討委員会（教育総務課）

## Point 3 地域包括支援センターの事業の人員に関する基準を定める条例

地域包括支援センターにおける職員配置の柔軟化の規定を追加するもので、複数のセンターを配置することにおいて、3職種のうち2以上の職員を配置するもの。

(1) 保健師その他これに準ずる者  
(2) 社会福祉士その他これに準ずる者  
(3) 主任介護支援専門員その他これに準ずる者

※高島町においては、町直営1か所で運営し、3職種配置している。

## Point 4 辺地に係る総合整備計画

**【変更】** 小型動力ポンプ付積載車等の配備（6年度から5か年の計画）宮下辺地  
**【策定】** 舗装修繕整備（7年度から5か年の計画）原窪辺地、小倉辺地、稲子原辺地（ぶどうまつたけライン）

# 3月 定例会

会期 3月5日(水)～21日(金)

**提出議案等は45件**

専決処分の報告	1件
人事	5件
補正予算	10件
当初予算	12件
条例	9件
その他	5件
議員発議	3件

**いずれも  
原案どおり可決**

## 予算審議

令和7年度の当初予算が提案され、次の質疑があった。

### 熱中小学校プロジェクト支援

問 開校して10年、今後強化する点は。

答 各分野の専門家を講師に迎え魅力化を図る。



▲地域留学活動報告会

り、都市部からの人の流れ、また県内外の関係人口の増加、移住定住につながる取り組みを強化する。

### デュアルスクール受入事業

問 今後の事業展開は。

答 課題として子どもの受入とともに親の就業先、いわゆる二拠点居住を町内企業と連携し体験に加えたい。ま

### 官民協働のまちづくり

問 町が考える具体的な内容は。

答 各専門分野の民間企業と連携し、業務委託をしながら、未来への投資として「日本人を育てるまち」を目指す取り組みとする。

### 子ども・若者サポート事業

問 多様化するニーズに合わせた事業になっているのか。

答 相談体制と居場所づくりを中心に、若者支援コーディネーターさらに一人一人に合った就労支援について各企業と連携していく。

### 公立置賜総合病院通院支援

問 公立置賜総合病院だけでなく、同じく急性期基幹病院である米沢市立病院への通院支援に対する町長の考えは。

答 これまで置賜総合病院の通院支援について公約としてきたが、米沢市立病院についても通院支援を求める声があることを考慮し、今後早い時期に推進できよう取り組んでいく。

### 地域敬老事業

問 6年度実施状況をふまえて、今後の取り組みは。

答 各自治区の区長にアンケートを実施し、より良いものになるよう、また町としてできる事を検討していく。

### 放課後児童クラブ環境改善

問 環境改善が急がれるが、事業の本身は。

答 防犯対策として、玄関入口にカメラ付きインターホンを全クラブに設置する際の補助をする。



▲カメラ付きインターホン

### 学校給食費支援事業

問 無償化を目指すところがあるが実現可能か。町長の考えは。

答 無償化を目指したが、食材費の高騰、全体の予算から6年度4割削減から5割程度にとどまっている。

### 町の下水道管の現状

問 耐用年数と点検について、どのような現状か。

答 下水道管の耐用年数は標準的には50年と

## 委員会活動レポート

### 産業 厚生

#### 有機農業

①町独自の認証制度について、作物に貼るシールやマーク等のデザイン、印刷といった事務作業を進めている。

そのうえで新年度から希望者を募集してスタートさせる予定。

②有機栽培面積拡大の課題であった除草対策にたいして、除草用アイガモロボット活用に効果の期待感をもてた。

費用面や効果面で1年目機種は実用化が難しかったが、改良化された2年目機種



▲アイガモロボットによる除草

種は値段も半値となり、駆動性も安定している。

協議会でも導入を検討し、ほ場での実証などにより有効な生産体系の確立を進めていく。

③基本的な有機栽培や自然栽培方法を広めるための研修を続けていく。多品種で多量生産農家は限定的なため、小規模・自給的な農家にも対象を広げて募り、2回目のセミナーには町外も含めて40人が受講した。

また、JAS認証を検討する農家の研修会など、生産面での支援やサポートをしていくほか有機農業だけでなく、地域づくりや町民の健康づくり、生きがいなど多様な角度で取り組みながら、小規模でも展開してもらえ

④新たにオーガニック関係の展示商談会も全国で活発に催されているため、そこに参加できる若手生産者中心の視察研修も検討している。

⑤町内飲食店でも、地場農産物や有機農産物等を活用できるよう生産者との交流も心がけていく。

#### 空き家対策

①平成30年度に策定された「高島町空き家等対策計画」について、これまでの町による対策状況はじめ、その後の法律改正や最新の現状分析へのアンケート結果などを反映して、3月に改定される「高島町空き家等対策計画」の概要が町から示された。

②令和5年度に議会で政策提言した「危険空き家所有者の意向や課題の現状を把握すること」に関し全ての空き家所有者（管理）者にアンケートを実施。400通のうち190通回答。

③7年度以降、所有者に対し希望する情報を提供する（解体補助金、空き家バンク、町内不動産業者の紹介ほか、パンフレット送付）。

④空き家バンクに登録予定のない報告等が4割もあるが、新規空き家所有者も含め資料送付している。

⑤空き家バンクは6年度で4件が成約に至っており、冬場の問い合わせは少ないが、不動産業者の努力効果もあるため継続していく。



▲積雪による空き家の崩壊

## 委員会活動レポート

### 総務 文教

#### 高島高校支援

高島高校生が地域の事業に参加して、地域の方々と交流を図ることが、高校生を取り組みを地域に周知できるいい機会となるため、高島高校の魅力化向上につながる。

生徒会やボランティアサークル「地球」に入会している生徒が事業に参加しているケースが多くあるので、いかにSNSなどの広報を通じて発信できるかが鍵となる。企業や同窓会とつなげることも大事と考える点がある。

高島高校近辺に飲食店が少ないとの声が出ています。また、



▲冬咲きぼたんまつりにて

校内にも購買がないために、保護者の負担軽減の観点からも購入できる所があると便利だとの声があった。

以前は購買が校内に存在していたが現在はなく、高島駅構内においては、学生向けの弁当を販売などしている。駅利用者のみではなく、高校生が利用しやすい校内での環境をつくっていくことが必要である。

高島高校存続に向けて、地域の声や入



▲りんごあめ販売(よねおりかんこうセンター)

学を希望する保護者や生徒の声を集め、必要とされる支援を今後も行っていく必要がある。

#### よりよい まちづくり

各市区公民館が窓口となって、各自治会で抱えている課題などを共有できるよう、プロジェクトチームの立ち上げや当局や議会が町民の声を聞く場をつくる必要がある。

なり手不足解消に向けた取り組みを早急に進めていかなければ、自治会の存続にも関わってくることから、早い段階で議論を交わし、まちづくりを進めたい。

年々子どもの出生数が減少している背景を踏まえ、多様化する社会をたくましく、しなやかに生き抜く高島町の子どもたちを育む小学校教育環境の在り方について調査検討するため、高島町小学校環境等検討委員会が設置された。

今後の教育環境の整備について、月日をかけて協議されることとなり、委員会としても検討委員会の協議内容を注視していくと共に、町民からも多くの意見が集まるよう、取り組みを強化していく。

#### 教育環境の整備

いざわ よし はる  
伊澤良治 議員



# 全町民対象の家計支援が必要

## 町長 限りある予算の中では厳しい

**問** コロナ禍に続き、エネルギー・物価高騰が町民の暮らしに大きな影響を与えている。ガソリン価格は190円を超え、食料品はほとんどが値上がりし、家計が冷え込み、消費の力も落ち込んでいる。全町民を対象とした商品券等を配布し、家計を暖め消費を喚起し事業所の活性化に取り組むべきではないのか。

**答** 大型の地域経済対策事業を実施するには国の交付金等を活用しないと事業構築は難しく、現在の限りある予算の中で、全世帯対象ではなく、プレミアム付き商品券事業を選択している。

**問** 税金の公平な使用方に疑問

**答** プレミアム付き商品券で地域経済の活性化を目指す取り組みは今日まで6回行われ、地域経済の向上に大きな効果があった。その一方、低所得者ほど支援拡大が求められるが、資金不足等で支援が届かない現実もある。

**問** 税金による支援は公平性が求められるのではないのか。

**答** これまで、低所得者には国からの支援等がある中、一方で、新型コロナウイルス感染症で停滞した地域経済を好転させるための



動画配信はこちらから

**問** 消費喚起策として、プレミアム商品券事業等に取り組んできたところである。

**高畠町の10年後の農業は**

**問** 10年後の高畠町の農業を担う人、利用する農地を定めた「地域計画」が策定されたが現在の耕作者と農地は同じであった。これは10年後まで見通すのは困難等の理由からか。今後の計画づくりをどう進めていくのか。

**答** 地域計画策定後も年1回程度、地域での話し合いの場を設け、計画変更を進めていく。担い手の意向や周囲の耕作者の動向や周囲しながら、担い手への集約を進めていく。

**後継者と基盤整備**

**問** 町内14の地域で農業者が協議した場で共



▲基盤整備が完了したほ場（亀岡地内）

通に出された課題は、担い手不足（後継者）と基盤整備であった。これらは、個人の努力だけでは解決困難で関係者が総力を挙げて組織的・計画的に取り組まねばならない課題と考える。この問題にどう取り組んでいくのか。

**答** 担い手の確保については、関係者と課題を共有しながら新規就農者の受け入れを強化していく。基盤整備については、今回の話し合いをきっかけに基盤整備の動きも出ているので、町としても支援していく。

# 委員会活動レポート



## 報 告 聴 取

### 農業委員との意見交換会

ワールド・カフェ



農業委員長  
山口和政さん

とだと思えます。今回に限らず定期的に開催できるように望みます。



農業委員  
嶋津功美さん

初めて農政懇談会を開くことができ、大変良かったと思います。ワールドカフェ、リラククスした形で話をしました。農業が元気でやれるよう、問題点を整理して今後の活動を積極的に展開してもらいたい。期待しています。

初めて議員の方々と話ができるまととない機会、農家が抱えている問題を聞いていただいているがどうございまして。

今話題になつている、米の生産者価格面から見ても若者が希望を持って就農できる状況ではないと思う。

農政、消費者等も一丸となって良い智慧を出し、農業を守ってほしいと思う。



推進委員  
丹野雄史さん

◇令和7年1月27日 午後4時

◇高畠町中央公民館 大会議室

農業委員会の皆さんとの意見交換会を「ワールド・カフェ」という手法で行いました。

昨年、先進地である宮城県柴田町を訪れ、ワールド・カフェを体験しました。それがとても良かったので、今回企画しました。

「ワールド・カフェ」は「席替えする井戸端会議」とも言い、リラククスした雰囲気の中、少人数グループで、先進地である宮城県柴田町を訪れ、ワールド・カフェを体験しました。それがとても良かったので、今回企画しました。



今度も多くの皆さんと一緒したいと考えています。

今度も多くの皆さんと一緒したいと考えています。



会長職務代理者  
佐藤真志彦さん

初めての試みである農政懇談会は大変有意義な話し合いだったと思います。議員の方も農政について感心を持ってもらえるのは良いこと



農業委員  
高橋稔さん

農業の担い手確保について、いろいろな意見が出された有意



▲農業委員会の皆さんとの意見交換会

国内の農業における現在の課題には、高齢化や人手不足、食料自給率の低下等多数の課題がありますが、農家だけでなく自治体や消費者が一体となって、解決策に取り組み姿勢を強く示さないといいけないと思われました。

なおしまよしとも  
直島義友 議員



動画配信はこちらから

## 子どもの心を強くする教育は

教育長 自己決定の場を意図的に設定する

問 子どもの心を強くする手立てはどうしているのか。

答 学校生活の中では子どもが主体的に考え行動する力を育むため「自己決定の場」を意図的に設定して取り組んでいる。

問 「現代っ子は頭がよくなくなったが、心が鍛えられていない」と発言している教育者がいる。

答 親が子どもに対して過保護・過干渉し、様々な試練を乗り越える「心の筋力」を育てる機会を奪っていることについてどう感じているか。

問 今後の社会を生き抜くためには「心の筋力」を育み、強化することは重要であり、そのための教育も必要と考えている。

### 心の筋力を鍛える教育とは

問 いじめや不登校が多くなっていることと心の筋力の関係についてどう考えるか。

答 心の筋肉を鍛え、人をいじめめる心の弱さを改善することは大切である。また、多様な学びの形はあるものの学校の集団生活で、様々な体験や学びを積み重ね、「心の筋肉」を鍛え、社会を生き抜く力を育む大事な教育である。

### 米騒動をなくすためには

問 昨年の夏突然スーパーなどから米が消え米不足に見舞われ、令和の米騒動と言われている。

答 これまで米は余っていると思われるが、政府はここ数十年間、減反政策のみ実践し、農業では収入・所得が少なく生活ができないからと、後継者が激減し続けている。今回の米騒動は、我が国の農政に対しての警告である。安定した米の生産量を図るには稲作農家に対する何らかの支援が必要と考える。

問 令和7年度の作付面積は増えているのか。町独自の稲作農業対策はあるのか。また、国への要望など行っているのか。

答 町の独自の取り組みとして、7年度から「生産の目安」を維持しつつ、「生産の目安」に達しない市町村から生産可能面積を借り受け、町内生産者の所得向上のため、主食用米の生産を増やす取組を行う予定。追加希望される232ヘクタール



▲大谷地の代かき作業

分を増産できるよう調整を図る予定。国から公表された水田政策の見直しについて、今後の方向性の具体的な内容と実施スキームをできるだけ早く示してもらえよう機会を捉えて要望していく。

にし かた しげ た  
西方茂太 議員



動画配信はこちらから

## 町内企業の成長を促すには

町長 経営人財の育成を進める

問 西町西工業団地への企業誘致がうまく進まない中、町内企業の成長を後押しすることが必要であると考え、どのように企業の成長を後押しし、ともに町の発展を進めていくのか。また、新会社設立に向けた起業支援等をどのようにして進めてきたのか。

答 町では、新事業活動推進サポート補助金や中小企業設備投資等補助金を活用していただき、企業の成長を後押ししている。また、リーダー経営人財（※）育成塾事業を継続して開催し、地域経済の活性化を担う経営人材の育成を進めている。

### ※リーダー経営人財育成塾事業は「財」と書くインバウンドによる観光客を取り込むためには

問 インバウンドによる観光客を取り込むためには、宿泊先の確保が必要となる。民泊やシェアハウスを増やす取り組みを提案したい。現在の相談件数や補助金など、状況はどうなっているか。

答 現在のところ、民泊の件は、1件電話相談があった。本町にはインバウンドを受け入れるための大きな施設がないため、今後民泊やシェアハウスは有効と考えている。民泊事業を希望する方がい

### たかはたブランドの価値を高めるためには

問 たかはたブランドの価値を高めるには、たかはたブランドに加わることで生産者や企業の自社製品の価値が高まる必要がある。売り上げにつながる必要がある。

答 現在どのような考えで進んでおり、また、目標に対してどこまで進んでいるのか。



▲たかはたブランドの一部

問 これまで町内の生産者、または食品加工企業で製造された商品が町が認証し、その商品価値の向上や販路拡大に向けたプロモーションを行ってきたが、これらの事業に加えてふるさと納税事業を強化し、町外の方の認知度をより高めていく。

答 高島高校への就学支援については、現在のところ、令和8年度まで予定している。この間、集中して経済的支援を行い、併せて高校の魅力化を図る事業を行うなど、町内外の多くの生徒から選ばれた高校となるよう町としての支援を実施していく。

### 将来の人材確保に向けた取り組みは

問 高島高校の存続並びに入学人数の増加は働き手の確保から見たも継続した支援が必要

さとうじゅんこ 佐藤純子 議員



動画配信はこちらから

# 「搾乳できます」マークの理解促進を

町長 県と連携を図りながら努めていく



▲全国に広がる「搾乳できます」マーク

出産後、入院中の赤ちゃんに母乳を届けるため利用する授乳室に、赤ちゃんを連れていないと利用しづらい

この声を受け、全国で搾乳できますマークを掲示する動きがあるが、当町でも理解促進と共

県で行っている「赤ちゃんほっとステーション」事業において、掲示用ステッカーに搾乳でも利用いただける旨の表示を利用しやすい環境づくりを推進している。今後も県と連携を図りながら、搾乳に対する理解促進に努めていく。

## プレミアム付きクーポン券

令和6年度3月補正予算で「県地域経済活性化・物価高騰対策事業費」を活用し「プレミアム付クーポン券」を予定している。町民の皆さんが、より使いやすく購入しやすい、配慮と工夫について町の考えは。

今回は、1シートあたりの金額を、前回から半分の1500円の額面で、1000円で販売し、お買い求め

しやすくしていきたい。また、前回同様、障がい者の方の代理販売を可能とし、多くの町民の方々にご購入いただきたい。

## 带状疱疹ワクチンの助成

厚生労働省は、带状疱疹ワクチンについて7年度から接種費用を公費で補助する定期接種に含める方針を決定した。

当町における带状疱疹ワクチンへの補助について考えはあるか。また、周知方法は。

7年4月から带状疱疹ワクチンの定期接種の対象となる方が接種される場合の助成額は、乾燥弱毒生ワクチン接種では4400円、乾燥組換え带状疱疹ワクチン接種では1回につき1万1千円、計2回接種で2万2千円として見込んでいます。

周知方法については対象となる方への個別通知と広報たかはたでの周知を予定している。

## まちの人材育成

町の未来を担う人材育成について、どのような計画を進めているか。

また、今現在活躍している人材を町民により広く知ってもらい、応援してもらおう取り組みについてどう考えているか。

人材育成事業は未来への投資であり、持続可能なまちづくりや地域の活性化に資するため、機会を捉えて積極的に取り組んでいく。その取組について、多くの方々に知っていただき、共感いただけるよう、その周知方法についてもさらに検討していく。

あきばあきこ 秋葉晶子 議員



# 「デュアルスクール」の今後の展望は

町長 新たな事業展開で高島ファンの獲得につなげる

今まで7家族21人を受け入れ、交流人口につながった成果を生かし、今後どのように発展させていくのか。

デュアルスクールを実施したことにより新たな関係人口の創出につながっていると感じている。

今後は、住まいの確保や親世代の仕事の選択という課題にも視点を広げていきたい。町内小学校や地域の協力も得ながら、往来を増やし、新たな事業展開を図っていくことで、高島ファンの獲得につなげていきたい。

## 子ども家庭センターの充実を

相談窓口の強化は



▲「雪大好き～」とすっかり二井宿小の一員に

もちろん、課題を抱える子どもとその家族を支える仕組みづくりや子どもの成長に合わせた養育環境の整備、不足するサービスの創出

など、町の考えは。

全ての妊産婦、子ども、子育て家庭について、子どもの成長と家庭の課題やニーズに応じ、関係機関と連携しながら相談支援体制を整備していく。また、地域のニーズや地域資源を把握し不足するサービスを進め、地域の支援団体や人材発掘など、新たな担い手の育成を行っていく。

## 保護者の勤務実態に合わせた保育支援を

保護者の就労時間や多様な働き方に合わせ、保育認定をした上でサービスの不足する部分を町単独でカバーする支援の考えは。

就労状況に応じ、フルタイム就労の「保育標準時間認定」と、パートタイム就労の「保育短時間認定」の二つに区分される。認定申請の際に保育施設と調整の上、勤務地への通勤時間や個別の事情等も配慮しながら、状況に応じて認定の決定を行っている。

## 病児保育のサービス拡大を

受入人数の拡大や勤務形態に合わせた保育時間の延長、軽食の常備の検討は。

定員3人に対し、常勤の看護師1人、保育士2人が疾患に応じて、各病児に1人ずつ

看護を行う状態となる。また、保育時間の延長や食事の提供については、幼児施設併設型でない環境から対応が困難である。預かるこどもの安全安心を第一に、他の自治体の事例も確認しながら、現状の体制で運営を行っていく。

## 地区公民館を地域の拠点に

あらゆる世代が集い、地域の中でゆるやかに支え合う仕組みづくりを進めていくことへの考えは。

今後、防災や高齢者支援など、様々な視点で地域づくりを進める必要がある。世代間をつなぐ担い手の発掘など課題もあるが、地域の人と連携して共に取り組み、地区公民館を拠点として地域の特性を生かし、より効果的な仕組みと体制をつくっていく。



動画配信はこちらから



動画配信はこちら

# これからの米政策の取り組みは

町長 主食用米の生産を増やせるよう取り組む

問 令和の米騒動と言われるようなコメ不足について、一連の状況をどう捉え、どう対応する考えか。

答 米の小売価格の高騰については、様々な要因が関係しているが、認識しているが、農業者へ一部しか還元できてないことは残念である。

問 国、県の政策に関しては、米価安定など、生産者の所得向上につながるような機会を捉えて要望していく。

答 町では、「生産の目安」の市町村間調整を行い、主食用米の生産を増やせるよう取り組んでいく。

## 置賜が連帯して国に提言しては

問 置賜三市五町が連帯して国に対して米政策を正す提言をしてはどうか。

答 置賜管内の農業者が安心して農業経営を継続できるようにすることは、全ての市町の願いでもあるので、J A山形おきたまや、置賜他市町とも連携を取りながら進めていく。

## 輸入米を返上する手立てはないか

問 ミニマムアクセスの輸入米を返上する手立てはないのか。これについても地方が一丸

となつて国に申し立てることはできないか。

答 輸入米の分の主食用米を生産し、農業所得を向上させるのは重要なことと認識しているが、その他の政策についても考慮し、国に対する対応については慎重に進めていくべきと考える。

## 米を増産し残りを輸出する発想は

問 生産量約750万トンで増産し、消費して残った分は輸出すべきと考える人もいるが、この発想はどう思われるか。

答 国内市場の動向を把握し、適切なタイミングで輸出する必要があり、それを安定的に行うのはハードルの高い状況であると認識しているが、現在交流を行っている台湾への輸



▲望まれる美しい田園風景

## 国への農業政策の強化・要請は

問 町の発展や安定は農業できちんと暮らせることが一番であると思う。国への農業政策の強化について、より一層強く求めていく時期と捉えるが、どう考えているか。

答 農業政策の強化を

出も検討していく。

求めることは、特に現在の環境や経済状況を考慮すると非常に重要な課題だと認識している。

具体的には、食料自給率の向上、持続可能な農業、若い世代の参入、農産物の価格安定など今後重要なポイントと考えている。町内生産者が農業所得により安定して暮らしているよう国、県に対して要望していく。



# どう深化したと感ずるのか町民の「しあわせ実感」

町長 取り組み成果の実感までは時間を要する

問 令和7年度の施政方針に、町長が掲げる「町民のしあわせ」を実感できる施策は、これまで同じ視点で取り組んできている。

答 「しあわせ」の捉え方や、それがどのように深化しているかを客観的に測るには、行政運営基礎調査のような専門的かつ多面的な分析が必要と考える。

問 取り組みの成果が現れ、町民の皆さまが幸せを実感するまでは、ある程度の時間を要するものもあり、これからも第6次総合計画に



▲官民協働のまちづくりに向けた人材育成リーダー発表会で

## 「課題解決型」の事業波及の可能性は

問 地域課題の解決な

基づき、施策の一つ一つを着実に進めていく。

答 本町の活力を維持し、持続可能なまちであり続けるため、町民・企業・行政が一体

## 置賜病院の通院支援はいつから

問 公立置賜総合病院までのデマンドタクシーによる実証実験を行い、通院の必要の人に具体的な支援をいつからどう進めるのか。

答 公立置賜総合病院までの通院支援として75歳以上の高齢者で、一定の条件を満たす方を対象に定額タクシー

立置賜総合病院の区間に限り定額でタクシー利用ができる事業を4

## 人材確保など介護保険運営の将来は

問 当町でも5人に一人が後期高齢者となり医療や介護の必要人が増える中、介護を支える訪問介護の報酬引き下げや人材不足等の課題をどう見ているか。

答 今後、後期高齢者の増加と単身や夫婦のみ世帯の高齢者が増加することにより、訪問介護等のニーズが高まることが予測される。

答 今後、後期高齢者の増加と単身や夫婦のみ世帯の高齢者が増加することにより、訪問介護等のニーズが高まることが予測される。

3年ごとの介護保険事業計画策定時に将来人口や介護サービス需要の傾向、また介護人材確保等の課題を検討する。



動画配信はこちら



# 部活動の地域移行の進捗状況は

町長 居場所となるようなクラブづくりを目指し進めたい



▲活動しやすいクラブに

問 令和6年10月から  
実証実験として活動し  
ているが、今後の方向  
性とこれまでの課題は。

答 部活動、地域クラ  
ブ、スポ少など保護者  
会が複数組織され、手  
続きが煩雑になること  
や、練習試合の調整な  
ども課題がみられる。  
あげられた課題を整  
理し、関わる全ての人

が主役になれる居場所  
となるようなクラブづ  
くりを目指し進めたい。

## コーディネーターの配置は

問 一つの種目の保護  
者会が、部活動と地域  
クラブやスポ少など、  
複数組織されることに  
なり、煩雑さが生まれ  
るといふ課題がある。



動画配信はこちらから

この点を調整するた  
め、本部や事務局を配  
置するべきだが、現在  
はどこが担っているの  
か。

また、先行する他地  
域ではコーディネー  
ターが配置されている  
が、検討はしているか。

答 当面は教育委員会  
で運営事務局を担い、  
実施していく。町でも  
地域クラブコーディネ  
ーターを配置し、円  
滑な運営を行えるよう  
配置していきたい。

## 今後の道路除雪は

問 除雪従事者の不足

や高齢化は、除雪体制  
に影響を及ぼすと考え  
る。これからも町の除  
雪体制の安定化を図る  
ためにも、除雪オペ  
レーター育成が必要  
と考えるがどうか。

答 除雪オペレーター  
の育成については、今  
後町道除雪委託業者と  
の意見交換の場を設け  
将来的にも、安定した  
除雪が継続できるよう  
検討を進めていく。

## 除排雪機械の更新やICT、AI技術の導入は

問 除排雪機械等の更  
新の予定と、今後ICT  
やAI等の技術の導  
入や、効率の良い除雪  
機械の導入は考えてい  
るか。

答 除雪機械の更新に  
ついては、7年度に  
ロータリー除雪車を1  
台購入予定。  
ICT等の技術の導  
入は、初期投資が大き

く課題があるが、建設  
業全体で取り組みが進  
んでおり、除雪機械に  
もその技術の普及を期  
待している。

## 高齢者世帯への除雪支援

問 町では、単身高齢  
者世帯等除雪支援金交  
付事業として、自力で  
除雪ができない高齢者  
世帯等を対象に、近隣  
の方や業者等へ有償で  
除雪を依頼した場合、  
助成金を交付している  
が、6年度の申請件数  
は、併せて、今年の下  
うな大雪では支援金が  
不足だと思うが、増額  
などは検討したか。

答 単身高齢者世帯等  
除雪支援金事業は、2  
月21日までに43件の申  
請希望があり、うち交  
付対象要件に該当する  
世帯は34件であった。  
近年は暖冬傾向であ  
り、支援金額の増額は  
検討していない。



# 置賜総合病院以外への通院支援は

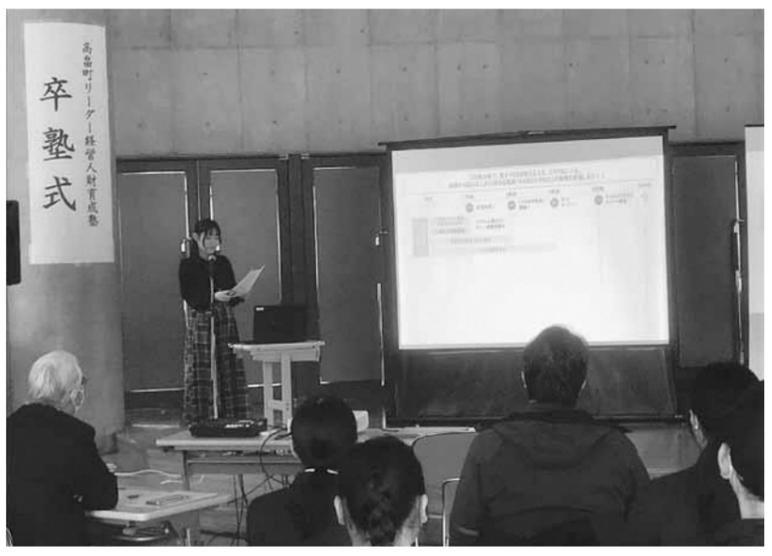
町長 今後検討する

問 置賜総合病院に通  
院する場合の支援とし  
て、75歳以上の高齢者  
を対象にタクシー利用  
支援をすることだが、  
米沢市立病院なども  
対象とすべきではな  
いか。

答 75歳以上の高齢者  
で、一定の条件を満た  
す方を対象とした、公  
立置賜総合病院まで  
の通院支援事業を4月  
から実施する。  
米沢市立病院への通  
院支援は今後検討する。

## リーダー経営人材育成卒業生への支援を

問 リーダー経営人材  
育成事業にあたり、塾  
生の計画実現のため



▲3期目となる塾生の発表の様子

資金を提供してはどうか。

答 受講生の計画を実

現するための支援とし  
て、昨年8月に国から  
採択となったデジタル  
田園都市国家構想交付  
金により「日本一人を  
育てる町」をスローガ  
ンに掲げ、産業創出事  
業、教育事業、子育て  
事業に取り組んでいる。  
その産業創出事業の  
中で、先進事例や事業  
実現に有効となる各種

セミナーを開催してお  
り、また、地域課題解  
決型の補助金を町独自  
で制定している。その  
補助金の活用により事  
業構想の実現や新たな  
産業の創出につなげて  
いきたい。

## ふるさと納税を活性化にどうつなげるか

問 ふるさと納税寄附  
金の額を当初予算で  
6億円と見込み、町内  
産業の活性化をどのよ  
うに考えているか。

答 ふるさと納税寄附  
額の当初予算6億円の  
見込みは、現在の中  
間業者を見直し、また、  
ふるさと納税ポータル  
サイトの「アマゾン」  
や「ヤフー」を追加し  
町の紹介や返礼品を掲  
載し、寄附額増加に繋  
げていきたい。

また、地域おこし協  
力隊を活用し、返礼品  
取扱事業者を増やして  
いくことや、農産物の

数量増加の確保に努め  
ていく。  
このふるさと納税制  
度を活用し、町内産業  
の活性化をこれまで以  
上に推進したいと考え  
ている。

## 地域活動の充実を

問 敬老会の地区事業  
の廃止をはじめ、多く  
の事業が変容している。  
今こそ地域活動の充  
実が求められているの  
ではないか。

答 現在各地区では、  
新たな事業も実施しな  
がら、人と人との交流  
を深めるための事業  
を模索している。  
これまで行ってきた  
様々な地域活動が見直  
しを迫られる中であっ  
ても、交流とつながり  
を原点とした地域活動  
を展開し、子どもから  
高齢者までが元気に集  
い、一人一人がしあわ  
せを感じられる地域を  
つくっていく。



動画配信はこちらから



# 「官民協働のまちづくり」とは

町長 人財育成を軸として進めていく

問 従来の行政主導のまちづくりから、町民、企業、行政が一体となった「官民協働のまちづくり」へと大きく転換して事業を計画していくと言うが、具体的な仕組みと費用対効果をどのように見ているのか。

答 「日本一人を育てる町」をスローガンに掲げ、現在、官民協働での人財育成を軸とした、課題解決型の「産業創出事業」、中高生が「地域とつながる学び場の創出事業」や地域社会全体で子育てを応援する「まちなまる」と子育て推進事業を進めていく。また、町民の声を聴きながら、「官民協働プラットフォーム」



動画配信はこちらから

フオーム」を立ち上げていく。この事業は、未来に投資する事業であり、その成果が見えてくるには、中長期的な視点が必要と考えている。

## 農業振興について

問 農業委員との意見交換会の中で、「兼業で生業を持てる生き方に満足している」「作物を通じて消費者に自分たちの思いを届け、感謝いただける仕事にこの上ない喜びを感じる」「家族と協力して仕事ができる幸せを味わえる」「お金では買えない充実した豊かな生き方を営んでいる」など、農家の神髄に触れる話を伺った。

## 地域計画は、町の設計図でもある

問 「地域計画」は、土地の集約、基盤整備等の課題抽出を可視化する整備ツールである一方、四季折々の美しい景観や田んぼダムとしての機能を併せ持つ町の設計図でもある。行政や多様な世代の意見をどう反映させるのか。



▲50年続く人材育成「教育キャンプ」

域での話し合いを行い地域農業の現状と課題をまとめた地域計画と農地1筆ごとに将来の耕作予定者を地図にまとめた目標地図の作成を行った。今後も年一回程度地域での話し合いの場を設け、随時計画変更を進めていく。

## 人材育成とまちづくりは

問 地区公民館を拠点に、官、民、地縁団体の仲間が統一した目的を持ち、ワークショップ

プや様々な体験活動を重ねて時間を共有し、何でも言い合える持続可能なまちづくりを展開することが重要であると考えるがどうか。

答 持続可能なまちをつくるためには、人材の育成は欠かすことができない。地区公民館が拠点となつて様々な事業を展開するために、子どもからお年寄りまで、みんなを育てる雰囲気をつくっていきたい。



# 地域防災力を高める取り組みは

町長 地域の防災活動との連携を進めたい

問 令和7年度施政方針の「安全・安心なまちづくり」において、「事前防災」の視点で町全体の防災力向上を図り、町民一人一人が防災意識を持ち、自主防災組織が本来の力を発揮できるようにとある。そこで、防災士養成講座への受講者を増やし、「防災士」により自主防災組織を強化する体制を行ってはどうか。

答 町内に居住または勤務する防災士で地域の防災活動へ参加を希望する方に、地区の自主防災組織連絡協議会への参画をお願いした。防災士の養成を継続し、今後も地域の防災活動との連携を進めたい。

## 自主防災組織で地区防災計画を

問 災害被害の軽減は自助・共助・公助の効率的な組み合わせで実現できる。「共助」の役割を負う自主防災組織が、「福祉マップ」や「地区防災計画」等の作成を進めるべきではないか。

答 地区防災計画は福祉マップよりも具体的な災害時の行動などをまとめる機会となり、その重要性は認識しているが、まずは災害への備えに理解を深めてもらい、計画の作成は段階的に普及を図ってきたい。

## 内水氾濫に対する取り組みは

問 県では、内水氾濫の対策として、河川内の支障木伐採など防災対策を進めている。町としても、県、地



動画配信はこちらから

問 県が新たに公表する情報を盛り込んだ「防災マップ」を作成する計画があるが、その主な内容と配布時期は。

答 新たな防災マップには、新たな土砂災害が発生するおそれのある箇所や中小河川の洪水浸水想定区域等を追加することとしている。配布時期についてはできるだけ早期に配布したいと考える。

## 新たな防災マップの内容と時期は

問 想定を超える大雨が発生し、「内水氾濫」による被害が全国で相次いでいる。早急に山形県および農業用水路管理者と協議を図り、調査等を進めるべきと考えるが、どうか。

答 県では、内水氾濫の対策として、河川内の支障木伐採など防災対策を進めている。町としても、県、地

## 災害情報の活用と防災講習会の開催

問 防災に関する新たな情報が日々更新されている。国交省や山形県による災害情報サイト、気象庁の「ナウキャスト」や「キキクル」な

ど、いち早く必要な情報を取得できる環境を整っている。防災情報の取得方法について講習会を開く必要があると思うが、どうか。

答 7年度、改訂する防災マップの説明会を自主防災組織単位で計画しており、その際、情報を得る手法についても説明を行う予定である。需要があれば、防災出前講座のメニューにも追加したい。



▲地域住民による支え合いマップの作成

## 令和5年、文部科学大臣賞を受賞

### ボランティアサークル「ひだまりおはなし会」



今回の“きらり”まほろば人は、高島地区を拠点に活動されている、読み聞かせボランティアサークル「ひだまりおはなし会」さんです。

令和5年、長年の功績が認められ文部科学大臣賞を受賞されるなど、その実績と幅広い活動内容は、趣味の域を越えた演者さん一人一人の意識の高さとチームワークが醸し出していると評判です。観客を魅了する迫力あるステージをつくる原動力を含め、楽しさの秘訣を伺いました。

#### Q. 会ができたきっかけは？

A. 25年前、高島小学校の先生から依頼があり、たった一人からの読み聞かせが始まりました。その後、当時の図書担当の先生が「ひだまりおはなし会」と名付け、エプロンを作ってくださったのをきっかけに保護者ボランティアとして活動がスタートしました。

#### Q. 現在の活動頻度や内容は？

A. 現在は、在校生の保護者だけでなく、卒業生の保護者も多く在籍し、町のボランティア団体として活動をしています。小学校での司書の先生のお手伝いと読み聞かせをメインに、生演奏の音楽や踊りありのミュージカル仕立ての特別読み聞かせ「ほっかほかシアター」を年に1回開催しています。

この企画が評判を呼び、近年では町のさまざまな施設はもとより、町外からも公演依頼のお声が掛かるほどで、去年は、オリジナル脚本でラジオドラマにも挑戦させていただき、準グランプリを受賞しました。

#### Q. どんな思いで活動されていますか？

A. 本の楽しさを知ってもらいたい。日常のストレスから少しでも解放される時間を提供したい。子どもたちには、地域の大人との関わりや感動体験を共有することで「心豊かな子どもに育ってほしい」と思っています。全国の様々な地域から縁あってここに集結した多様な特技を持つ個性的なメンバーは、思いをカタチにする名人ばかり。

本の世界に浸っている子どもたちのキラキラした瞳を想像しながら、「次はどんなお話をしてあげようか」と考えている時間がとても幸せです。

#### Q. これからどんな風になっていきたいですか？

A. 時代とともに変わっていくと思いますが、変化を進化として捉え、「できる人が、できる時に、できることを」をモットーに長く活動を続けていきたいと思っています。

委員長  
副委員長  
委員

編集委員

西金青武秋佐平  
方子柳田葉藤  
茂陸 正晶純  
太夫貴隆子子誠

### 新庁舎での6月定例会を傍聴しませんか 6月10日(火)～20日(金)

本会議の傍聴は自由です。  
詳しい日程は6/5以降町ホームページでご確認ください。  
問い合わせ先 議会事務局 ☎52-4485